

B.C 建設.

1976-6-30 (木) T.B.C → B.C ①①①① (52)

高度順化のためB.Cへ行く平井先生、緒方にB.C入りの田中君、広石の6名で下B.Cを出発。快調に進んで10時にはもうB.Cへ着いた。B.Cはまだ雪が多く、テントを張る場所うまくみつけず、石づみを作るのにたいがい苦労する。

am 6:20. エルビの頂上は良く見え、中、それでも良い天気。7:30、田中、に続いて出発。広石、緒方、平井が続く。

am 7:10. 前Ice Fall 麓の川。氷河の横断に移る。この氷河の横断も、ここはらくはこれで、おしまい。いよいよB.C入りである。

am 8:00. 西氷河と Sheryi Gang 氷河のエンタビにモレンの上を行き、前Ice fall にさしかかる所で休み、トランシーバーにて発信。

am 9:00. B.C下のモレンへ、icefall の fix を直し、ボレグ用にかつて、カレに上る。

am 9:55. B.C. 着。今日の高度は4900m となっていた。そして天気も下り坂らしい。

平井先生他、ハイボーターやローボーター達の帰ったあと、ちよとカレの出ている所にテントを張ろうと、ヒョケル、エニヒを使つて頑張りも、実にひどい仕事となった。3時間以上かけてやっとテントサイトができる。ダンボールを積み、一次隊の古テントを張ると、荷物のテントを整理して、やっと一息入れる。頭痛がしたし、おまんこが。それでもテントを作つてのむとすとおきあてした。

今日のアルバイトは、テントサイト作りと、テントの整理の方が、B.C入りよりもよほどきつかった。雪のとけ方が遅いのが、少し下は水流となっており、その下は水で、こまが向は頭だった。

1976-7-1 (木) B.C ①①①① (53)

6:00 起き様としたが雪のため、発信後、眠る。脈63。

9:00. 腹がへって、しかたなく起きる。朝食は、ぜんざい。もち5枚とゆであずき、塩昆布。短。4900m. (pm 8:00 ~ 9:00m)

11:30. B.C. 登。マゼンヤギン。必5. 5100m IL+作り。広石と二人、高度順化とIL+偵察をかね、A.B.Cへ向けて出発し、約2時間にて、B.Cへ到着。

後さんの作てくれたアリのうまかつた事。この上なし。今日は、B.Cは全部、活動中止。H.P. や隊員ごらの働いても良いとも思われるが、まあ、一日ぐらいそういたほうがあつても良いだろう。後さん、乃さんも昼から高度順化のため5100mまで雪の中を歩いてゆく。

夕食は、ベゴを良くいため、ぶた汁とする。圧力釜にて、おしこはんと、ほうれん草、LELを作る。テントはもう3つ。今夜は広石君のはかりいで、07のつくだにも出てきた。夕食後、時間がたつぷりあったので、ゆくり日記をつけたり、毎に糸紙を書いた。明日は、視界を元まつたうA.B.CまでIL+をつけて、テント他、カレ荷上げもした。

後さん、乃さんは、夕食後、アイソム。広石は読書。トントンピー7の側壁で ice block 崩壊。pm 3:00頃。今日の積雪は、5cm ぐらい。蒸発が早く、ほとんど積らないう。

前次の時は、こCに着いたのは、7月23日頃だった。それから3日ほど悪天で動けず、A.B.Cには、7月29日頃に入った計算だ。約一月早く進んでいる。悪天時をうまく利用するのが、効率的の良いやり方というものだ。

1976-7-2 (金) B.C ⇒ A.B.C. ①◎◎⊗ (54)

5:25 起床 ちよと起きるのが遅かった様に。

7:20 B.C 発。

11:30 5270m 地帯 A.B.C 予定地。

12:10 発。 15:10 B.C 帰着。

出発が遅くなったため、10:00 ころには雪がくさり出し、アルパイトがきつくなるし、靴はぬれるしであまり良い事が無い。田中、つる谷、井上、広石の4名にて A.B.C 地点の偵察と荷上げである。A.B.C 用のカマボコテントや、2人分のシュラフ、エアーマットも荷上げしておく。B.C からのルートは一次のものとはほとんど同じであるが、ジャンダルムの下と、B.C 上のところが少しちがう。氷河もまだたっぷり雪があり、側壁からは、けこう大きい雪崩がどんどん出てくる。日が当たると氷河の中はとてつもなくあつく、今日一日で顔は完全に日焼けしてしまつた。帰りは雪がとけて歩きにくい事、この上なしであった。

今日は B.C から中村、居谷が B.C. 入りしてくる。岡本 Doctor と木本が B.C 往復、これにキャプテンがつかってくる。ローポーター10名も、昨日の休養で元気に荷上げしてくれた様である。

B.C は朝夕の気温差が大きく、昼は水が流れているが、夜はカキカキに凍ってしまう。今夕は、干キントマトクリームスープにマフィンカ、それにご飯といったところである。

A.B.C 予定地から西積は真近に見える。P9 の鋭い岩峰も印象的であった。頂上があまりに近くに見えて、気味が悪いくらいであった。ジャンダルムの支氷河も少し変化している様だが、ルートはとれそうである。エシルピラへの新 icefall はけこう変化していて、一次の時よりよいかぶり悪いと見た。

1976-7-3 (土) B.C. ◎⊗-⊗-⊗ (55)

5:45 起床。田中、つる谷、食当するも、おしえてくれた時間がある。

7:30 広石とガイルを結んで出発 A.B.C へ向う。

9:00 B.C 着。広石体調悪く、ヒョウテで引返す。

今日も天気はあまり良いとは言えないが、A.B.C へホッカイロに向う。広石君はヒョウテが上らず、ふらふらしているので、ヒョウテで引返す事にする。下 B.C からは緒方が B.C 入りし、B.C へヒョウテはこれで7名となる。

下 B.C には、平井、岡本、木本の3名が残っている。悪天期に入っているか、あと1日は続くものと思う。田中の気温もあまり上らず、氷を作るのに苦労する。今日は5L のポリタンを出して、これに1L の水を入れておき、明朝のジュースに使用するつもりと、これに、出発を早くしないと、雪がとけて歩きにくい、それにあつた、よくなる事はないのだから。

今日はけさ、田中、鶴谷、中村、居谷の4名が A.B.C へ荷上げした。

pm 8:00 気温 4895m.



気温の変化からすると明日の昼すぎから、天気は良くなるものと思われ。明日から A.B.C に入って、C へのルート偵察に移るわけである。下 B.C の荷物もあと3日もあれば全て B.C へ入るようである。今日のヒョウテ、ミカニゼリーは完全にうまかつた。明日後日、Mail Runner が帰ってくるそうである。

1976-7-4 (日) B.C → A.B.C ○①①① (56)

A.B.C 高度 am 10:00 5250m pm 7:00 5240m

4:00 起床 食当。7名分の朝食もこう冷えては時間がかかるとかたがた。雑炊とミルク、ティー、ビスケット。

6:30 田中副隊長とザイルを結んで出発。今日は昨日の引返しの分もボッカしようとして頑張る。20名ほど A.B.C へ荷上げする。

9:55 A.B.C 着。日射が強くて熱くてたまらない。A.B.C 用の超大型カマボコテントを張る。内張をつけ両側の出口をおけるとけこうすずしい。

A.B.C. に着いて4時間後に少し頭痛がした。又、夕飯ホーンに行くと急に腹具合が悪くなり、前半、良ホーン、後半、下痢であった。pm 7:00 まで腹の中ぐるぐる。頭も少し重い。

今日はほんとうに暑い天気。ボッカには熱くて苦勞した。B.C からの荷上げで、ルートを高れる。A.B.C の夕飯は、牛肉の味噌汁と、みそ汁、初の玄米を食べる。pm 4:00 夕飯をとり、午紙を書いて、あとは日記づけのみ。

A.B.C 入りは田中、中村、井上の3名。鍋釜と居るがサボレ十してくる。2人は、テントを張りおいた後、12:00 に B.C へ帰る。15 B.C 着。T.B.C からは、木本が B.C 入り。つる岩、灰石が T.B.C 整理のため下降する。

Shoyu の西稜を双眼鏡で見ると、P.9 あたりがやはりやせていて、いやらしいものである。何とか P.8 と P.9 の間に登れば、話は早いのであるが……。

1967-7-5 (日) ABC → ⁵⁸¹⁰西稜氷河 ○①①〇〇 (57)

西稜ルートの偵察。

メンバー 田中、中村、井上。

今日は西稜を真直に見ようと、3人で A.B.C を出発。一次の時船津 Doctor と西内が登っていたジャンギルムの支米河を快調なピッチで登って来、雪は良くしり、マイゼンが快適だ。それぞれ、アイスバー、ヌマル、バル、スノーバー、フックスロープを持って、初的高度にしては元気に先へ進む。何としても取付を見てみようとして頑張る。たが、行けども行けども見えるのは同じ部分ばかりで、とうとう高度計が 5810m をさす所まで、やてきたが取付だけは全く見えず。しかし西稜のほとんどの部分が良く見え、何となく頂上まで行けそうであるが……。

C₁ はカール状の階を登った氷河の上が良さそうである。出発前にどこまで見ているか、決めずに行、たため最後のあたりで、中村さんがぶつぶつ、12:00 の交信では、平井先生も無理せずに戻ると言うし、とうとう引返す事になった。

この氷河は、中南部に少し ice fall があるだけで後はきれいな傾斜をもっており、雪さえ良ければ C₁ まで繋がるルートとなるものと思われ、2ヶ所 フックスをはる。一ヶ所は、雪壁で、60m ほど、帰路雪がくさてた、いれどらうと、fix する。もう一ヶ所は、幅 5m ほどのクビスの横断。ここはもう少し、ていねいにして、ボッカにそなえる必要があるだろう。帰りにこの fix の午前で3人ともに頭痛をうたえたが、A.B.C へ帰るころには完全に直っていた。

夕飯は木本の ~~作~~ あげてくれたマトンをヤキ肉とソーテーにしておいしく夕飯をとり、全員肉の食べすぎか、めいの方はあまりはかどらな分た。西稜は P.9 と頂上近くの△形岩壁が最大のポイントとなる様である。

1976-7-6(水) ABC→BC ○○○○ (58)

昨日の痕から今朝は、6:00起床とす。天気は良いが三エルピラから
着4マイルフォールを越えても、くる風が強くて、ABCのカマボコ・テント
は外では寒い。いよいよ着込んで寝る。そのせい今朝は寒くはな
かった。夕食の残りでも雑炊を作り、焼肉の残りも残すことなく、食べて
しまふ。

あとかたずけに時間がなかったが、8:50 ABCを出発。5分ほど下った
と3で、平井隊長、Doctor、木本に会う。平井先生は我々といふ[5]にBC
へ下る事にし、Doctor、木本は、ABCまでホッパする。

今日は、ホーラー達も最後の荷をT.B.Cからホッパし、一担下っていたつ
る。広石もBCへ登ってきて、Capt.もBC入り。全員がそろったわけ
である。一応BC完成という事で、H.P.を含めて、記念写真ととり。夕食
には、今日も焼肉が出され、皆がうまそうに食事をす。

食後、今後の進めについて、テストなし。一応西稜にルートを決め
今後の登攀を進める事になった。田中、中村、井上の偵察がやはり
重要なポイントをしめている事は確かである。

BCへは10:15着。ちょうどホーラー達もT.B.Cから登ってきて、いよいよ、
しめくりの支払いをすませる。10日近く頑張ってきた連中であ
る。J.L.コンダス・ワラは特に良く頑張った。

支払い風景を16mmに4コマ、マミヤフォルスで、別水のあいさつを取る。
こはかには人間の風景と言えようか。

T.B.Cから登ってきた、~~田中~~、つる、広石も完全復調といえよう。
全員がそろって、いよいよ、三エルピラへ向って、登攀に移るわけ
である。

1976-7-7(木) BC⇒A.B.C ○○○○ (59)

今日から全員がそろってスタートお事となり、今日は休養の田中、
中村以外の全員が、A.B.Cへホッパお事になった。平井隊長も
自ら、食料をホッパし、今日一日で、H.P.も含めて、200kgがA.B.C
に荷上げされた事になる。

5:00 Hassan が起してくれ、後5人の作った、毛干入りの雑炊を
食べ、また寒いテントの外に出る。今日は広石と再びザイルを組み
6:25 BC登 9:00 ABC登 10:35 ABC登 11:45 BC着の半日
行動となった。

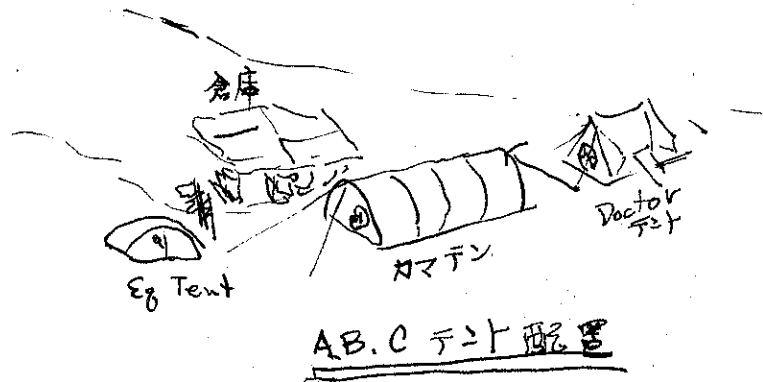
マミヤフォルスと、テントとスノーバー、バニルをホッパする。岡本Doctorも
ホッパに参加してくれ、酸素ボンベ2本をABCに上げてくれる。
昨日からDoctor特製の日焼け止めクリームを使いはじめたが、肌のが
悪い以外、実に良くきき、ひりひりもとれ、今日ももちろん使う事にし
いた。朝BCで昼ABCで、それだけでもうこれ以上焼けずには
むわけである。

半日行動であれば、ハイホーラー達も疲れずに済むし、我々としても毎
日荷物があがるので、これほどうれしい事はない。A.B.Cのカマボコ
テントの快適さを考えると早くA.B.C入りしたいものである。

A.B.C以上ではプロパンを使用するので今日は、プロパン用の雑
品をそろえておく。大型バーナー2台、小型3台、アタン2台を使用す
るわけであるが、C₁、C₂、C₃にうまく配置しなければならぬ。

1976-7-8 (木) B.C 決 ○○○○ (60)

全と良い天気、明日 ABC入りするため決断とする。
 木本と岡本 Doctor も決し、9時頃まで休んでおと、全員の食事作り
 に精出す。みかん入りセー、ココア、7059、ティ、雑炊 etc. 10人
 分の食事となれば、けこう場所向もかりたいへんである。
 腹がゆるいせいか下痢をする。口にはいくら食べてもうまいのに、
 ホンは急にやってくる。
 Doctor 心電図取り、決したせいか、脈はく数もゲンと下がり良い
 傾向であった。



B.Cの日本食は生米を使っているのでとにかくうまい。今日は
 小生、決とあって、うでをふるって、八宝菜を作る。居るもうまいうまい
 といって食べる。全員この種の味にはやはり弱い様である。

"ABC-C1 肉 fix"

- 肉 fix. 8mm x 50m ストバー 2本
 - 肉 fix 8mm x 20m " 2本
 - 8mm x 10m " 2本
 - 肉 fix 8mm x 50m " 4本
- Total 130M

1976-7-9 (金) B.C → A.B.C. ○①①② (61)

倉庫、井上、緒方、居るにて ABC 入り。平井隊長、広石は決、他隊員は
 ABCへ荷上げ。ハイクター達も連日の荷上げにもかかわらず、
 良く頑張ってくれている。
 朝ホントに行くところ下痢は直った。少しやわらか目だがどうと
 う事はない。
 B.C-ABC間も何となく通いなれたという感じである。
 今日は居る君のトランスポートに加えて、カマテンボックスの酸素の
 レジレーターや工具のつめたものをボツカしたので実に重く、又、
 しゃべりが悪くてヒューン言いながら ABC 入りする。

ABCにはさっそくたぐいしよってきた荷物のため倉庫として雪洞を作る。
 3m角ぐらいで上にフライシートを張ったものだが、有用なものか
 できなかった。
 今日は、キャンプは、夕ガスの Strong Ale のとに3へ向けて出か
 けていって、たぐいしよ 250- を出せというのだが、けきよくは、ヒ
 ンデンへ帰てからと言う事を出発した様である。

(7/11) ABCもそろそろ完成はいよいよ C1 入りし、上部キャンプへの
 ルート工作が始まる。ABCのトランスポートは木本が世子事と
 なる。明日は緒方と C1 5850m 入りする。

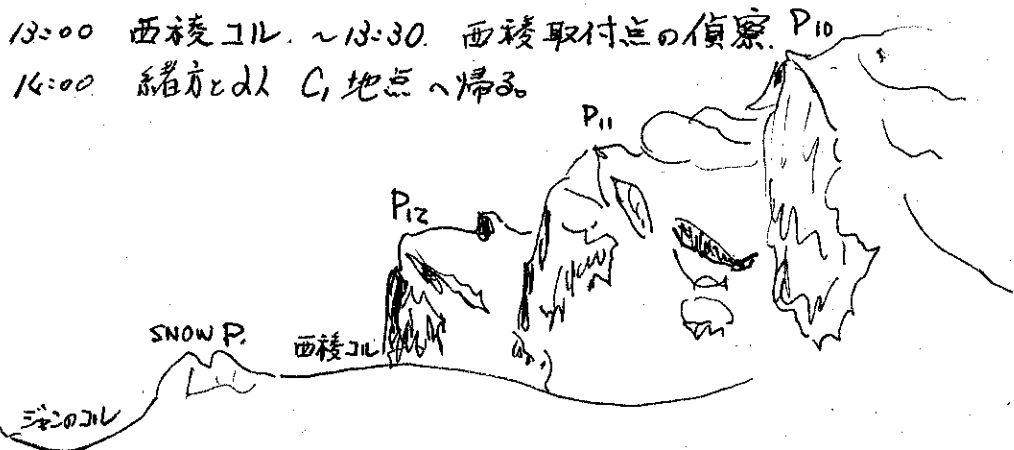
76
1976-7-10 (A) ABC=C, 5900m ③④⑤⑥ (62)

6:25 ABC登 #シルバ-テ. 万谷-居谷 #上-緒方

10:15 C, 予定地点 高度計 5910m

13:00 西稜ヨル. ~13:30 西稜取付点の偵察 P10

14:00 緒方と以 C, 地点へ帰る



7月5日の偵察では、5810mまでしか到達できず、西稜上部の偵察は完了したものの、取付点が不明だったので、Cをすぎて上部西稜の取付点をさがしに出掛けた。鶴谷 居谷 Party を残して先を急ぎ、5850mのC, 予定地にツツス他をDepositし、ガスがまき出したジャングル支氷河の奥の院に歩を進める。こはなべのふたの様な所で、三エルの西稜と南稜が作り出す大きな壁のふところのカーブで、小さなスノーフィールドを作っている。この西稜とジャングルの間には小さな雪のヒーフがあり、正石岩にはP9とP10の間のハンギング氷河とこの雪のヒーフを結ぶ糸が、分水嶺になっておる。西稜はカベリ氷河側へおちている。西稜への取付は、一番末端のP12とP11の間のルンゼに登ればならない様である。高度差100mで、ジャルの支氷河の源頭からP11のトラバースも少し下り急流で、いやな所だ。カベリの支氷河へスリッパと切り水しているのではないだろうか。14:00 万谷 居谷と合流し、小雪のちらつく中、エッジ落しにやまざれながらABCへ帰ってくる。

1976-7-11 (B) A.B.C. ③④⑤⑥ (63)

5:00 起床、雪のため出発を少し見合せていたが、小やみになつてから、平井隊長、田中、林、広石で高度順化をかねて9:00出発する。雪の中、こくろうさんな事である。

小生は明日のC, 入りにとどめて、緒方と、ABC, 決とす。鶴谷 居谷は、岡本 Doctor, 中村との交代のため12:00頃、B.C.へ下っていく。

11:00 H.P. 4名とジョック Hensam が、A.B.C.着。ハッサンは、テントを持ってきてくれる。H.P. 達にたばこ、緒方がヒズケットをやる。H.P. 達もそろそろ休みのほい時と思ふ。

ABCに4人用のテントを追加する。又、ホコ場も新しく作り直し、A.B.C.もかなり大きくなった。雪穴倉庫の中は満はいいである。昨日、Capt. という方に Mail Runner のマヤの件を確認するために下っていた Rasool が手紙を持ってB.C. 入ったというのである。Doctor をひ頭に約30通あるそうた。13:30過ぎても岡本、中村はABCへおこさない。きっと道々手紙を読んでいるにちがいないだろう。

明日からC, 入りである。西稜へ出るまでのルートワークがポイントとなる。井上、緒方でルートを切り開かぬはならない。P10~P12 間のルンゼは気温の低い時にルートワークしたいものであるが、さて、いかなるものであろうか。

昨日で日本を出発してから2ヶ月目を迎えたわけである。pm 8:00 高度計は5200mから5250mに気圧があがってくる。夕方、Hensam の駝が馬との連絡がB.C. よりある。小生も食べすぎが少し下痢する。母からの手紙もとどく6月7日付のもの。A.B.C. へは、岡本 Doctor, 中村氏が入る。ぬる前に仕度の準備。明日からは、11-12日な登攀とぼるでしょう。

1976-07-12 (A) ABC → C1 ○○○○ (64)

キヤン70高度. pm6:30 5850 m
am5:15起床. 緒方. 広石 両君が 昨日ゆがいたうどんを おかわり
を作ってくれ. これを食べて 出発という事になった. 今日は C1 建設と
いう事であれこれと 出発準備が かり. うすらと積った雪の ABC
で 急いで 荷物を作る.

am7:00 出発. 広石-木-田中, 緒方-中村-井上の オーター
10日と時とちがいの雪も良く 滑って 快適に進む. 先登110-ティは.
途中のクレバス帯の上に 昨日荷物を テポシているので 途中の
フックス 工作も やってもらう. テポシて 追いついて (am10:00) 昼食
をいっしょにして. あと. カールをいっしょに進む. 12:35 C1 地点につ
く. 8人用の 一次隊の C1 テントを 今回も C1 テントとして 使用す
る. 両側に 入口のある. うなぎのねじこ スタイルの テントで 4人用
を2つ かつけた みたい なものである. Skardu で 居るが まらからで
使用したため. 5850 m の 高度に やってきて も なお かつ. ほこりに ちや
まされる とは. 思ひも ぶらな かった.

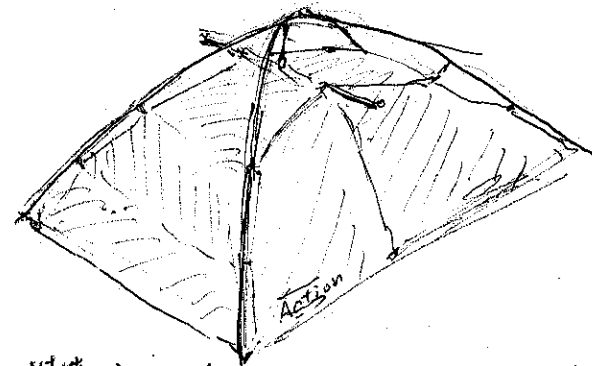
木が 日射と 水を とおして ジュース を 作ってくれたが 実に うま かった.
田中. 広石 で. C1 から 上部の 再偵察 に出る. 意見を 合せて. P10
下の ヒンギン グラシエール に ルートを 決定した. 明日 緒方と
2人で うろろろ する 必要も なくなり. 安心して ルート 工作 が できると
言う ものだ.

今日は 又. 平井隊長. Doctor は. ジョック Haasan が 高山病 であ
れたため B, C へ 下る. 平井 先生は. 午後 上部の 指揮 を 取る
ため 再び ABC 入りする. 13時 居るは. B, C にて 荷物の 整理
にあたり. 明日 から ABC 入りし. 上部 への P10 が 始まる だけ
である.

pm 7:00 11K. 75. C1 にて. pm 7:30 69 ぐれせき 出る.

今日の食事は. 牛めしに エビ卵スー. ぐれせき 特別食が ホッパ
さできて いないので. テポシて ぐれせきの おいしい ものに ありつけ ない
のが 残念 である ほかは 別に 肉は 買 ない
夕暮の 風景 を ぐれせき におさめる. 美しい カルトロ, すぐ 目の 上 にお
る エルセロ カンリ. 何と 言っても この キヤン70 は すばら
しい 所 である. これ ぐれせき には 西 稜 である. あせらず.
じっくり 取組 まねば なる まり. 今夜は 緒方 と 2人
だけの C1 生活. pm 7:30 という のに 残照 で 日記 が
かいる ぐら い である.

トモシツ, エルセ, ぐれせき, action Tent



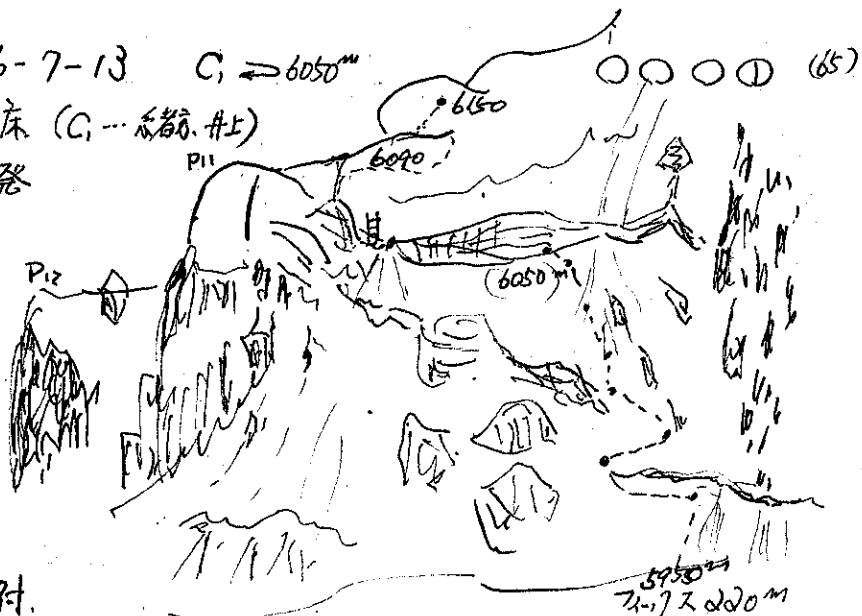
キヤン70 では 隊長と Capt. が
使用. BC 以上 で NE 用
テント として よく かんは して
います. 場所 と ぐれせき の
と. すぐに 建て たり した ため
りで できる ので 人 気 も の. 75
シート を つけると. 雨 に 強
く. ぐれせき にも 使 いた.

装備 として. B, C に 1張, ABC に 2張, C1 に 1張 を 使用 している.

1976-7-13 C₁ ⇨ 6050^m

4:45 起床 (C₁ 糸巻 井上)

7:00 出発



8:00 取付

10:20 6050^m ひさしの下. 平井, 広石 Party が カルで我々を見守る中. 13:30 下降. 14:30 C₁ 帰着.

いよいよ西稜に取付く事となったが、ひさしの下へ入るまで安心のできないルートである。雪壁の最もゆるいところをダイレクトにひさしの下まで行くルートをつけたので ストアールドで見守る平井先生達は、はらはらしながら見ていたにちがいない。

P10の下を取付に於ルートに変更しなければならなかったらう。これでも岩場づたいで決まやましいルートとは言えないので、どうしたものか考えてしまう。ひさしの下は、雪崩もとびこしてしまうので安全なトバースルートと言える。ザイル220m、スノーバー8本を使用してひさしの下へ入った。ひさしからはP11へなつた所を登り出られる様である。この西稜へ出るルートが今回の西稜ルート中の最難関となる様であり、今後のルート工作も荷上げもここを越してからやらねばならないのでたいへんです。早く高度順化を終了したメンバーをC₁に投入してもらいたいものだ。明日は、後継隊までのルート工作。

今日つけたルートはひさしの上にラビネツツの様なすじすじのテラテラがあり、雪崩が出たらたいへんだという事で、P10の岩の出たところのいかにルートを変更す様、平井隊長から指示を受ける。

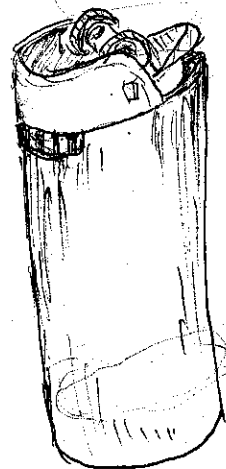
C₁に帰て、平井隊長と相談すも、隊長はかなり騎虎である。ひさしからP10の岩稜へトバースして下降しながらfixをばればかなり雪崩から安全なルートができる事もたしである。

何はともあれ、今日は6000ライに突破で、C₁にて緒方とみかん缶を焼けて、祝う。→次の時と比較すると早いペースで6000ライを越した計算である。

ひさしの下は、いい所。K6 K7. サセルカリ etc も見える。

P11 7:30 高度 C₁ 5850^m 明日も良い天気か、少し風が出ている。高層雲が申し分け程度に出ています。

4時 帰る。后谷、BCの整理後、ABC入り。田中、中村、木本はABCにて休養。



B&Cの使いだライター

使用最高高度、7月27日現在 6600^m (健在な)。マ、マはガス、ガス、白煙をおける中、さつぷくピ、70ライター？

1976-7-14 C → 6150^m 0000 (66)

再びル-ト工作。6:25 C 登。8:00 氷壁の下。11:00 稜線。

12:15 st. 13:00 6150^m 地点 (メンバー 緒方、井上)。
描とのル-ト工作も2日目。朝の雪の堅いうちでできるだけかせいでおかないと、日が当り出すと、雪はくさるしル-トはのびないし、暑いしでどうしようもなくなる。C₁ 上の雪垣からは、トカや西氷河、K6、リツサル、K7、が見える。西稜に出ると、今度は、マツヤールムのすばらしいロウツツワ-も見える。もう少し登れば、干ゴツザ、バルトカニリ、ケント、ミアカリも見えるわけだ。西稜 C₂ は実にすばらしい所となるであろう。フューズ ガイルを使い、また所 6150^m にて引返す事にする。下りは実に早い。カラビナをかけて、アツガイルンをするわけであるが、スイスイと、45分ぐらいで取付のニルニトにおりてしまう。これから天気の良い間に何とかアツガイルンでル-トを伸ばしたいものだ。P9 さん越せばあとは部分的にフューズが、いるだけで、アツガイルンに入れるので、これから10日ぐらいが、はうぶ 所となる様だ。

緒方君力作のスーパ-も実によく頑張ってくれている。Suzuki はこれが一番良い。しかも安いのに見える。アングルも良く、ハコフも良くしてある。

今日は、底のら上にル-トの工作だが、5^m のはしでフューズ 100^m で稜線に出る。あとは P10 の岩のトラバースが問題だが、これも順調にル-トはのびて行くものと思う。ただ氷の通路だけ何とか早く、処理しなければ、ならないものと思う。

1976-7-15 G → ABC. 0000 (67)

6:10. 田中、木本 Party ル-ト工作に出発。

6:30 井上、緒方 ABC へ出発。

7:30 ABC 着。後は休日となる。ABC の雪もかなりきたるようになった。

朝食を摂せしむに、ABC へ休養のため下る。約1時間、ABC へ降りつく。C₁ へのボ、カ隊は7:00 に出発。つる谷はせせせとあなから登っていたが、寒峰、1ドをいためてしまふ様である。一亦、田中、木本の工作隊は、調子良く進んだものの俊さんが途中で調子が悪くなり、100^m ほどル-トを伸ばしたため、C-I に引き返してしまふた。

ABC では平井隊長とともに今後の方針について話し合う。あと10日間ほどが重要なポイントとなるのは明白。行動表を再検討し、アツガイルン建設まで7日間のつなぎを組み直す。C-2 には約280 kg、C-3 には110 kg をボ、カ隊は、アツガイルン態勢に入る事ができる。C-1 への補給は、17日か H.P が参加するので、順調に進むであろうと思われる。夜俊さんは熱を出して、Doctor の指示により C-1 にて木本が処置する。

田中、木本 Party は、体調不良の点もあるが、ル-ト工作のやりかたも一つといたるところがある。C₂ 以上のル-ト工作では無ダはゆるさぬので、注意してもらいたいものだ。特にギルのつなぎと、ヒコノ位置に配慮が必要である。

1976-07-16 ABC 決 ○○○○ (68)

6:30 起床. 7:30 朝食. 全員そろそろ疲れしてきた事もある. いよいよ C2 から C3 への正念場にかかっているので. こらで一日休養するのも悪い手と考へ休日とした. 明日は. 中村. 緒方. 本. 居谷. 広石 party が C1 入り. C2 へのルートワークと荷上げにあたる.

そこで今日は短期決戦のための準備にあたる事となった. 毎日吹っていた風もやみ. 暑い一日である. こい連日の快晴. いったいどうなっているのかと思うほどである. 昼から食当をやる事にする. カニサラダとビーフシチューと夕食に出す. 明日からの方針決定.

- 17日. 中村. 緒方. 居谷. 広石. C-1 入り. 本と木 荷上げ
- 18日. 井上 木本. C-1 入り 前記4名ルートワーク
- 19日. 6名~4名. C-2 への荷上げ.
- 20日. C-2 入り又は一部荷上げと休養 ABC 下降.
- 21日. C-2 入り.
- 22日. C-3 (アタックキャンプへのルートワーク)
- 23日. "
- 24日. C-3 へ ボッカ.
- 25日. C-1 入り アタック隊 C-2 入り
- 26日. C-3 入り
- 27日. アタック. (サボ-ト2名)

といった計画となる. 6名の隊員が 6000m 以上で 10日間頑張ってくれたら エルピも何とか頂上に立てるものと思ふ. 小生 明日は C-1 への荷上げである. 今日の休養がうまく今後の高度順化に結びついてくれる事を祈る. 中村グループが C-2 を P10 の上に建設してくれれば何も言ふ事は無い.

1976-07-17 ABC → C, ○○○○ (69)

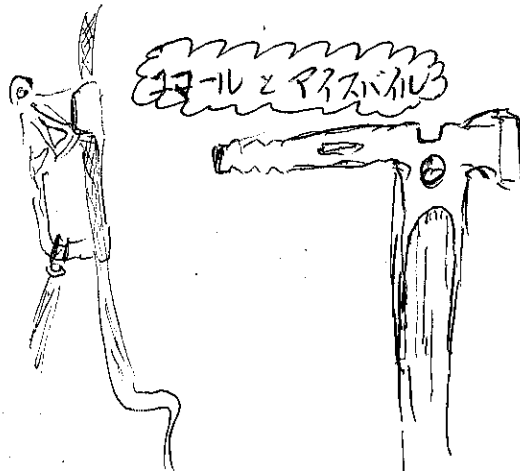
4:50 起床. 中村. 緒方. 居谷. 広石, C-1 入り. 井上. 木本 C1 往復.

6:20 ABC 発. 9:40 C1 着. 平井先生が帰るので待っていたが途中で引き返しては. たとの事である. 10:30 まで待っても帰ってこないので. 引き返す. ABC-C1 間も連日の晴天で. クラスも多く口を開けてきた様である. たんたん雪の色が黄色にきたなってくる.

先日まで先端ばかり走っていたが今日 F でボッカ. ABC から C1 へは. 早く出発するのが最良と思ひ. 木本と. 2人後を追って来る H.P. の Asad. Ramajan を意識しながら 6:00 まで C1 へ入る. ABC-C1 間のジャンギルムの支水河は中間部に小さな ice fall がある他は. 全体として滑らかに傾斜をあげているので. 高度をかせぐ事ができ. エルピの頂上へも近づいた感じである. ABC が充実に. こから C1 も充実にくる. C2 へのルートも早く. 完成しなればならない.

ABC ~ BC. 間ルートワーク

○フックスは3ヶ所. エルピの支水河のアイスファールに集束. とわけむつかしいという所もない. 約150m のロープを使う。



1976-07-18 ABC → C₁ ○①①① (70)

そろそろ天気も下り坂。6:50起床。ABCに残っているのは年よりはわり。早起きしてから食当もして出発もしなければならぬわけ。たいそうな事である。

6:50 ABC着。(田中副隊長とサカを組む)

11:30 C₁着。俊さんはC₁に着くとすくにござり。夕少調子が悪い様である。

さて、C₂へのルフト工作队4名はPm 6:00までP10直下で頑張っていたが、けさよくP10上へは出る事ができなかった。もう少しという所であったが、まあしかたのない事である。6時5分前になつてもまだC₁へは帰リつかないほんとうにごくうさんである。明日は4名とも次のABC下降という事になりそうである。俊さんと連中の帰るのをじと待っているが、何とも腹がへってしかたがない。

"C₁ ~ C₂ 間ルフト工作"

7/13 緒方井上	7m, 720-70	8mm	220m
	スノーバー	8本	
7/14 井上, 緒方	7m, 720-70	8mm	150m
	スノーバー	9本	
	スクリュー	3本	
7/15 田中, 木本	7m, 720-70	8mm	200m + 50m
	スノーバー	4本	
	アハルケン	3本	
7/18 中村, 緒方, 居谷, 広石	7m, 720-70	8mm	300m
	スノーバー	3本	
	ハーケン	6本	
7/19 井上, 広石	7m, 720-70	100mm	(8mm)
	スノーバー	2本	Total 920m
	スクリュー	1	
	アハルケン	1	

1976-07-19 C₁ → C₂ (6240m) ○①①① (71)

天気は下り坂かと今日も思っていたが、またまた良い天気。昨日、4人PartyでP10の突破を試みたが、P10の岩の下でストップしてはったので、今日は2名がホリカ、2名がルフト工作という事で6:20先発する。

6:20 st. 井上, 広石 7:25 緒方, 居谷, st.

10:00 P10下, 登攀準備。

C₁からC₂へのルフト工作は、これで5日間を要した事になるが、とにかくにもC₂を出すめとまでついたわけである。P10直下のルフトは三角形の岩の下を右側にトラバースしてルフトに入り、約30mの雪壁を登れば、P10上の雪田に出る。C₂の位置はこのP10上の10ヶキの間風のなごうな所にしておいた。P10への登りの稜線からはゴゴリガ、スノーバー、K₂, ガンシヤ、シヤカニ、バルトカニあたりまで



見通す事ができた。Pm 1:00 3:00にP10上に出る。P₉がシヤ-70の形状で眼前にせまってくる。

昨日からICB-170の小型トランシーバーを使いはじめたが、C₁ C₂間であれば十分に使える。但し、音質は良くないのでボリュームをあげおきて使うのは考えものである。P10のトラバースで5:30と6:00の交替だったが、ハーケンにつかまったままおねのホリカントからトランシーバーを出して使うのも簡単でらくである。

P10からのシヤカニの面積は、P₉のシヤ-70と70のおと広い幅のある稜線となり、肩へ続く。肩のあたりからは、西北面の雪壁もあり、二ヶキの肩根のシヤカニも近く、コルゴタスから見える。頂上岩稜は、直接アタックする必要はない様子だ。肩の下に平坦部があり、アタックキャンピにはちょうどいい所である。いよいよC₃に向けてのルフト工作である。

17:30 C₁着。

1976-07-20 C1 沈 ◎◎◎① (72)

4:00 ホンに起きる。ホルトも C1 上空もめずらしく雲、但し雪は降らず。
AM 6:00 5830 AM 10:30 5860m

AM 10:30 C1 テントの天上ベンチレーターの前で 41°C、暑くなりますね。
薪火を食べて、6:45 田中、中村 Party を C2 へ送り出す。今日は C2 用のテントと、
食料を少くホッカしてもらえ。2人とも少し、L&D まであつたが昨日沈
んでいる事でもあり、頑張ってもらう事にする。

今朝、ABC では、11 人の Asad, Ramazan に木本が加って
C1 へよってくる。明日からの C2 へのホッカに参加してもらう。
岡本の Doctor、7 名は、久しぶりに ABC にやってきた Rasool にも、8 (C
へ下り)、B、C 残品の整理と忘れものの処理及び、11 人の食料支給にあたる。

今日、マクマク食の Box を C1 へあげる事で平井先生、アツアツ言う。
英語が多くある点が気に入らないらしい。C3 建設を一気にやるとし
たいとの意向であるので、その通りかも知れないが、C1 で全て調整でき
るものを、何も ABC でぶつぶつ言う必要はないと思う。

C1 の高度が 5860m あるので、休養になるかどうか問題であるが、今日
緒方居谷、広石、小生の 4 人が 8 人用のテントで休養しているに
よると、さほど心配はない様でもある。C1 テントの入りからは、面積
P10、P11、P9 と見通せるし、行動中の隊員をもはっきりと見ることが
できる。

C2 に、C2 用品と Attack 用品がそろえば、attack はすぐである。ル
ト作中に C3 マクマク用品が全てそろえる事は言うまでもない。従って、
夕マクマクとしてはこれから 1 週間以内という事になると考えられる。

21:00 B、C の 7 名谷氏と交信の予定。16 本 - 1 本 - 4608

11:05 木本、Asad, Ramazan C1 着。ホルト、チャイをふるう。12:00
の交信で B、C の H.P. の ABC 移動に関して相談する事になっている。
木本、Asad の話によると、ABC - C1 間のルートはかなりいたんできたよう

で、雪の上は 2 バス、ズタズタとなった様である。明後日
には、B、C の H.P. も ABC へ入りにき、やがに C1 へやってくるで
あろう。トランスポートの問題は C1 → C2 間に限られている。

木本は早く復調してくれ上部での活動に参加してくれる。
8:55 ホルトにすばらしく明るい流屋 (7/19)

昨日帰って行きたい山

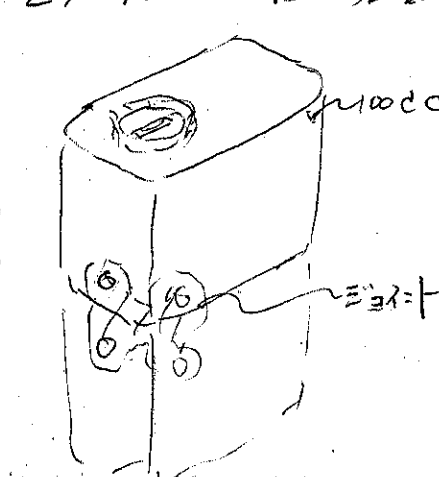
C1 で 7/20 沈をしていて、外は white-out、内では食べる話しと日本
話し。山にフイもあめりか出る。奥美濃山行 etc.、小生のマク
マク。

07:30 スキーマー

食料、カタイホン、バター、肉のリフトくんせい。これだけで、但し
日本の雪の湿気には十分注意。初日は、サハチ一尾をうまく料理お
様に煮るのもよし。7/21 のマクマクとサハチはおじのバター
いため等も良いのでは、出発前に市場に行って、又料理の
本を持って調べて見るのも良いだろう。

おいしいものとして、オムレツ、マヨネーズ、ワイン、さくら
さくら入る軽い容器も考えてみた。

山行に行く前に一度自分の着備を
設計してみても良い
のでは無いだろうか。



1976-07-21 C1 → C2 6340m (93)

C2入りの予定であったが朝から雲の様子が変わり am 5:00のトランシーバーの交信でバラクーダと全員でC2への荷上げに切り変える事をつける。中井上、緒方、木本、居谷、広石の6名で約70kgの荷を西稜C2予定地P100上6340mに荷上げた。朝の出発が遅くなったことからの気温上昇のためP11に突降してきたこと、Sheryu南面に雪崩が結露したことでpm 2:00 ~ pm 3:10まで雪崩待ちをしい。その間Sheryuの頂上氷田から続々と雪崩が発生し、我々のルートにも少しづつのかさつぼが出た。pm 3:00の事である。気温9°C 雪温-1°C まで上昇したので危険であった事は確かである。前日、座がとんだ岩を削った湿雪が出て、P4氷壁取付の最下部のfirを一部切断されたので不気味な感じがしていた事は確かである。

6:50 出発 C1 登 11:45 C2 着。12:00 ABCの平井隊長と交信。気温上昇につき注意する様にとの事。後発の緒方、居谷、広石と約1時間待ってのスタートのため、湿雪雪崩時分にひたひた合えば、雪崩待ちとのお結果となった。今後もこういったCaseに合う事もあるので注意しなくてはならない。pm 6:00 気温-1°C、雪温-2°Cにあたり、庇の下まで下降する。雪はぐさぐさになってしまい、実に不快なものである。庇の下で再checkすると気温-4°C 雪温-2°C であら氷が降り出したので意を決して下降する。庇の下降中、P10上部の小さなブロック崩壊も加わって、すさまじい音の雪崩が発生した。広石君が雪温計を持って歩いてくれているのでたすかった。

C1着はpm 5:00になってしまった。中村さんの作ってくれたシルクテイクであった。テントの雪の調整をすませて、テントに入る。この日のホッカイロもあと2回ほどあれば、ヤタ、7用品もそろそろのめで、こは慎重に行動すべきである。スノーバー、スノーフロ-70のMaintenanceも毎日着て行く必要があるだろう。

1976-07-22 C1 決 (74)

雪のための悪天決は、久しぶり。am 4:45 起床。5:00 平井隊長との交信にて本日は行動中止と決定する。7:00までシラフの中で夕飯をおぼる。

紙書き Capt. Mohammad Cho, がB.C.へ帰ってきたのでC1でも紙書き。母、兄、白形、谷、母は書く。おし通課長に書かおぼらない。朝食は雑炊、昼食にせんべい。話しがそろそろ日本に帰って何をしようかとの相談に当たった。小生宅でスルムの現象ができた時に、試写会として日本料理Partyをやろうという事になった。

Party 試写会

- menu. ナマ (スナ + おろ)
- 711ハン
- やまいのキサミ
- いものころがし
- おくら
- 大根の一夜漬
- 酢くらげ (まわり付)
- 銀しり
- ちりめんむし
- 日本酒 (但し、宮酒)
- 711のてりやき
- さといも 田楽
- やきなす
- 落鮎の塩焼
- 生いたけのしう油焼
- 野菜サラダ
- ゆかめ

帰国してやる事 ○ 根園でジャンジャン ○ 月見山行 (比叡山) ○ 新宿小柳に子エゴ ○ お茶会 ○ スキー大会 (井上の田舎) ○ 紅葉狩 (福高 町 ~ 新福高) ○ 西村先生 (懇談会) ○ 福寿で一杯 ○ 六甲台一杯 ○ 丹波笹山 ボタン鍋 ○ 松葉がはら-テ

その他東京着時にやる事 ○ 札屋 ヤキ肉 ホルモンParty

決まらぬいふに食べたいものが出てくる様です。入山の日目ともなるとそろそろ日本も恋しくなるから無理もないとは思え。夕飯前日本山の山行についての話も多く出てくる。奥美濃。

pmb:00 気温 -3°C, 気圧 5830m. pm 7:00 1kg ころけし、雪が降る。食事は5:30に終了。C1でも元きたけのびんがわかる。今日の昼食は、せんざいと焼もちに、缶詰のホムスミール。この中で、おちの件についてくわしく書くと、イスタト赤飯を利用して、ここから小豆を取り出し水炒す目にて圧力釜でもどし。芋も入れて、もちにしてゆく。おぼろこのでカクク粉で小さなもちにし、御ていねいにもこれを700Wで焼いて、せんざいに入れたわけ。又、しょう油焼きにのりをまいたのまて作って食べました。卒めな連中が多、と楽しい。水生活ができる。

今日はBCにママ干着小生にはも通じているぞうだ。一通り山田という人からたぞう。6時の交信にて、鶴登氏が伝言してくれる。

Attack Camp 計画

<食料> 4人x4日 = 16人日 (約20kg) 1kgの缶詰は2kgを7つ持っているから、これは、緒前に一任しておいてまちがいな気がする

<装備>

- ・テント 3人用 0.6kg
- ・ツェルト 1. 0.6kg
- ・クマザシ 0.4kg
- ・エニヒロ 1 0.5kg
- ・雑品
- マ、干、薬品、杖、~~杖~~ 杖、~~杖~~ 杖、~~杖~~ 杖
- ・登攀用具
- 8mm x 40m 一本
- 8mm x 100m 三本
- ハンマー 1, バスル 1
- アイスヒール (スクリュー 5)
- クマザシ (10)
- ズーパー (8本)
- 酸素ボンベ 2 12kg
- 700W 15 25kg
- 700W 15 1.0kg
- 酸素ガス 10kg
- 他の品は、マ、7日にサホト(はらう) 3kg
- 食器 1.0kg
- ロープ 1 0.1kg
- フィルズ 2 65 (27)
- 3kg
- 15kg
- カラビナ 8

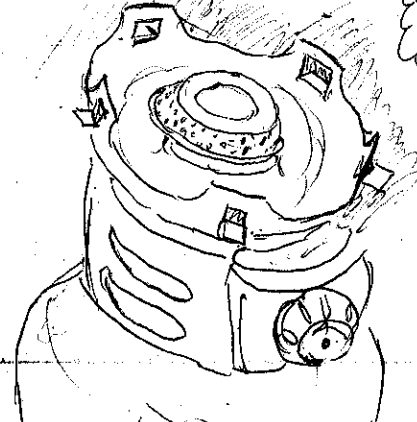
1976-07-23(金) (75) C1 → C2 ①②③④

7:00 C1 谷 新雪が約50cm程度積ったがトレースに消えずに残っている。C2入りは井上、緒衣、尾谷の3名、田中、中村、木本、広石がサホトしてくる。C1 ~ C2 間のルートは約900mのズーフスロフのおかげで、登りやすくなっている。今日はできたルートをC2入り、向きのP-9突破を試みるだけの事である。そのP-9のセフトリッジを考えると、気が重く、こも確かである。初の6300mとまりで、高度の影響も心配であった。

C2着後、6人用テントをたてる。ホールの中間部が一本たらずしりたなく一本はつげずに張る。前日までのテントをテントの中に入れて、せつかく6人用テントも狭くなってしまった。

C2の位置は、計画していたP-9下、P-10上という事になった。6340mの高度が確保されたので最終キャンプは、C3という事になった。C2までのルートは、オルフスに近しい、厳しいルートだったので、6340mまでキャンプをあげる事ができたのは幸いである。

P-10上のポイントの間のくぼ地にテントを張ったので、C1から見通す事はできないが、カベリ根がすははり切れていて、西稜上は風も強いので、このくぼ地に張っておけば、安心して無人にできる。吹きたまりになるのが欠点とも言える。サホトの連中とららんにテントを張る pm 12:30 C2着



700W ス、700W ハンター
今回の遠征の燃焼器のヒーローか、C2以上ではこれが最大のフリーヒット。

C2 ⇨ P9 (6660m)

1976-07-24 (76) ①②③④

4:45 起床。C2 初夜。6000m以上で
 ぬるぬるの事なのでいささか心配
 な点もあったが、朝おとぬむいなと
 という程度である。昨晩~~直~~直数76。
 手足は氷がむくみもなし。
 朝食は牛乳のやあらかいのと
 スープ

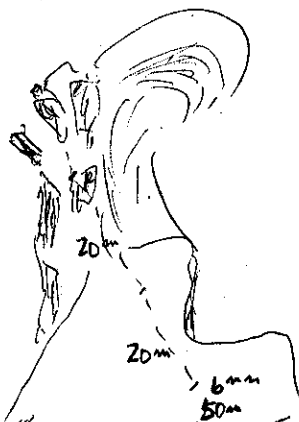
7:00 にはいよいよP9のル-ト工作に
 出発する。昨夜C2の初夜
 を迎えたのは、緒正居谷。
 又と白ちよと高層がはれ
 気味は以外は
 とゆ元気であり
 たゆましい。



P9は、C2のテ-トサイトから見ると南米のネバネバ何とかなの様にすごい
 鋭い山に見え、闘志もあいてくる。P10の海地のC2テ-トサイトから
 取付まで登攀用具をどさどさ持って、よたよたと歩いてゆく。8:00に
 トラニパーで交信した後、ザイルをのぼして行く。P9、コ-9又氷河
 側はス、ルリと切れていて、高度感はあるが、P9まで
 頑張ってP9頂冠の一部に達する。おすは岩のとろろをたどって、JLへ
 下降。C3予定地へ向けて、ル-トを南に行かぬばならない。
 P9突破が逆稜登攀のキギであるが、今日のル-ト工作でP9も
 はほぼ頂上までル-トを削ぐ事ができた。8mのロープ200m
 ではほぼ冠部まで、達する事ができた事はよろこばしい限りで
 ある。

1976-07-25 (77) C2 ⇨ P9 最低コル ①②③④

6:50 起床。昨日目のル-ト工作。P9の冠上のトラニパーからであるが、
 今日居谷にトラニパール-ト工作に専ら。約40mで例の出バエの上
 に達す。幸い、P9上のトラニパーは歩かなくても、出バエの下降に
 ワイヤラダーは必要なくたすかる。P9も裏から見ると大きな雪庇
 になつていて、P9の上は通らずに
 すむ。最低コルまでのトラニパーは、C1
 あたりから見ているよりずっと立っていて
 おまけに雪が悪くて、歩きずらい。
 トラニパーの口のトラニパーは、C1から見
 て、左端のトラニパーがある所へ、約
 40mのトラニパーで下降する。



最低コルあたりはへらとした所
 あり、オズが巻き出して張る必要もない。6mのトラニパーを50mほど
 張ってしまふ。P9の登り口までで今日のル-ト工作を終了する。
 さすがに6500m以上の行動は、何となく、きつし感じる。
 平井隊長、岡本Doctorも今日はC2往復である。

P8とP9の最低コルの高度は、6450mをさしていた。
 P9をこらしてしまふと、あとは、肩の下の台地までの岩まじりの
 横糸糸が200mほど続いているが、これはP9とC3へると
 傾斜もあまりないので、C3建設時にル-ト工作すれば、
 C3、P9、7キヤン70は建設できるはずである。今日のル-ト工作は、
 あまりのむず、P8登りの準備でおわってしまったが、明日の木本達の
 ル-ト工作でどこまでいけるかが大きな問題となる。

1976-07-26 $C_2 \rightarrow C_1$ (78) ◎◎⊗⊗

P-9のルートワークを一通終了したのでC₁へ下降する事に
C₂高度は6280mから6350mまで変化する。朝あま天気は良く
ないが後さん木をルートワークに送り出し後等の帰たときのワイ
をテレスに つめて(ここでゴッファーをひっくり返しニッカーニッカーホス
をぬらしてしまう)8:00前眼下に見えるC₁へ下降する。

A.B.Cからは休養後の中村氏がつる谷氏とともにNホルターの後をC₁へ
入っている。

C₂のアイスバールを下降に持っており各部のスノーバーのメイン
ナイスをやる。ワイヤーラダーの所のヒンは、ここ数日の暖気で半分
近くまで頭が出てしまっていた

このルートも初日に取付こうとした時は雪崩と傾斜。アイスプロックに
西後にはたに取付し事ができるのかどうか心配したものがあるが
一担ルートができてしまえば、皆が意外に簡単に行き来する様
になるものである。

P-7 6580~6690 P-8-P-9のJL 6490m P8 6540

C₁において、母からの年紙5通と山田京子君、樋口さんの2通の
年紙を受取る。6月7日以後のほとんど毎日の生活が良くわかる年紙
であった。会社の方も相変わらず多忙な様である。

母の生活は、6月の梅雨の間、大住いにもなれたらしいがやはりさびしい
毎日を送っている様である。朋子がたいが言葉をおぼえて、毎日
兄を起しているらしい。堺のゆき回忌、ケイちゃんも東京へとい
でかそうだし、やはり留守をしていると、生活のまわりも変化が
あります。

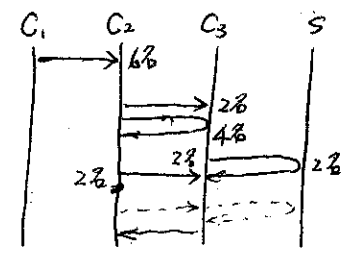


母の作ったテッポウ飴、今年は風が強い
かきと梅雨に白く日あふ光をな
げかけていたように……

1976-07-27(79) C₁ 決 ◎⊗⊗◎

平井隊長、中村、ABCからのH.P. 出迎え。
田中、木本 C₂より雪と霧と風の中をC₁へ帰ってくる。

C₃建設の見通しもつき、今後のマ77のやり方についてC₁へ集結した9名
が相談の上、下のうなぎを決定する。C₃建設には6名が荷上げビルト



ワークをやる事になった。マ77は、
3リナーが切断してメインギルとして使
用すれば、150mは上にあがる事ができる。

登頂隊員の決定も明日一日決であるので
つる谷氏がC₁入りしてからでもおそくは
ないとの居谷の意見で、明日になった。

稜上へは又る送れば良いという事
になった。Doctorもこの山に登りに来たのだから当然登頂への欲があ
って当然であり、全員そのつもりで今日までやってきている。

9人も一同に集まるも久しぶりである。つる谷も早くC₁へ入ってきてもらいた
いものである。倉倉にはホットケーキを焼く。C₂で初の701にも食べ
る。Sheryu 頂上マ77については各人が色々の意見をのべているが
まとまるころバラバラ一任というところである。

pm6:00の交信において、明日、つる谷氏もC₁入りお予定となった。
本expeditionについてのDoctorの参加意識は、医療係として隊員の
診療をするのもちろんの事、やはりクライマーとして頂上をのぼらう気持が
あったはずで今日までの行動を見るに、平井隊長とともに、どうもDoctor
無一本と、なっている感があり、やはりそれが不満となって出てきているが、
それは当然の事であろう。全員登頂か、2名attackかという意見が
Doctorから出るのは当然の事、今後どうもDoctorをいかに活用する
であろう。それには皆が良く世話にもなっていて、愛持深く、我々の
サポートをしてくれ、ほんとうに良いDoctorだと小生は尊敬している

1976-07-28 (Sat) C1 休養

◎◎◎◎ ←これは向かい

pm 4:00 5875m (C1 高度) 休養も2日目になると、だんだん重くの
がおくうになてくる。9:00頃、スーパースターの朝食をこた後、お昼ね。
少し頭痛もおぼえた今朝の目さめだたのたぬ事については何の抵抗も
なかったわけである。それにしても今日で日本を出発してから80日
の事である。今日は、つる谷さんABCからC1入りし、10名全員が、
C1に集結した。天気さえ良ければ、明日から3日目が頂上マタク
の日となる。

昨日、バラクーダからうなぎの発表があったが、今日は、メンバーの発表もある。
頂上マタクが残されるのみとなった今日、C1に全員集合し、約1600
mのシールド頂上が晴れるのを待っている。

マタクメンバーは、C2入りが6名、田中、中村、井上、緒方、木本、居石、
第2次マタクが井上、緒方、第3次マタクが田中、木本、第4次が中村
居石、C1-C2間のサポートは、鶴谷、広石となった。C3建設が
重要なポイントとなるが、C3は肩の下の雪底の上と決定、高度6800m
程度と思われ、Sheepiの高度が7380mであれば、580mの登攀
となる。7303mから503mの登攀であり、ほぼ堅い attack である。
1時毎に100mの高度をかせいで行けば良いわけである。

attackの肉題点は、肩の雪壁と、頂上岩稜とギバという事になる。
ギバが高ければ、最後は岩登りとなる。

明日かあさって天気が良ければ、第2次カラコルム遠征隊の結
論も出されるわけである。いったい小生はいつからこのカラコルムの
未踏峰にとりつかれたのであろうか。社会人となってからも、カラコルム
への夢を持ち続け、大福に入ってから今回で2度目の挑戦となった
わけである。準備を考えると、たいへんな努力である。1971年は、小
林秀昭が俊さんと、スワットへ行く事になってから当時のリ-9-577
の山本、木本連由の隙に9-577の夢としてカラコルム登山を

目指さうという事になって、秀昭にカラコルム地域の調査費を念出
し、12月の印10紛争の発生まで11ヶ月に滞在して、フエ谷
まで入ってもらった事がある。それから3年間、毎年Pakistanに
applicationを出し、金井隊長、太田隊長等をかっぎ出したが、
山岳会の内部ではもう一つもりよる事がなかった。資金の問題で
も340万~400万ぐらいでできるのではなからうかと考えていた。

pm 6:00 朝食不足の夕食だったが、肉の旨味のおかげでうまいカレーライス
ができて、少し元気も回復してきた様であり、明朝5:00の天気でマタク
を決定する事になる。田中、つる谷、Doctorの3名は、花札にこまづぶし。
pm 6:00 高度計高度、5870m

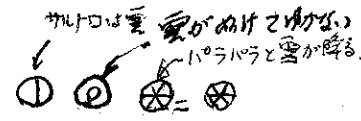
2日決は、T.B.CからC1入りする前日以来の事、決めの日目で十分
滑休めしておけば、3日目十分に活動できるであろう。C1→C2
へは体力を侵せず、C2→C3間は、ルト工作もあるし、ゆこうしんとい
いではないたらうか。C3からのマタクは、高差600mであり稜線は
ゆこうむづかしいのであろうけど、何とか処理できるものと思う。

Attack 用 装 備

- 1. ガール 8mm x 40m
- 2. ナイフ ガール 8mm x 50m
- 3. フタバーナー 1
- 4. マタクカー 1
- 5. マイクバイル 1
- 6. マイスハニマー 1
- 7. カラビナ 6
- 8. すてなめ 6
- 9. ツェルト 1
- 10. トランシーバー 1
- 11. カメラ 1
- 12. 望遠鏡 1
- 13. フィルム 6
- 14. テレメス 1
- 15. 0.7mm x 28
- 16. フタコー 11-17mm 4
- 17. 靴 2

Doctor. 9-2の採集をする。

1976-07-29(81) C, 氷殿



6:40起床。C用の8人用シートは、第一次のC用シートでもある。但し、一次では4850mの今回のCには、たものである。炊事場におたので、食当をやるため、早く起きて、薪炊とテイスを作る。

朝一番にシオンをいにてシートの外へ出てみると、カルトロは厚い雲に包まれており、シエルヒより雪はかなり雪も少く、晴れている感じである。

06:30 C, の高度 5880m である。天気は、はうこう状態といったところである。バラサフの判断で本日は決と決定する。テイスもテイス用に圧力釜で作ったが、一本だけ、テイスにつめて、あとは10名でのんでしまう。

9:15~9:30. 4人の11時-9-達がC,へやってくる。今日でC,以上必要品が、一応そろったので、明日からは、やがて終了日まで、休養とせおいて撤収には十分に活動してもらう事とする。朝食後は、日本に帰てからの楽しいスキー山行等について話し合う。現役の合宿の思、出話しをな后居がやってくる。

10:00 早く寝ると80. この高度で、80がらますますといったところである。天気の方は、急変化せず、ちよとしたがすのままで安定してしまつた。

明日は晴れてほしいものであるが、どうなる事かわからない。にニミラフである。DoctorはCapo.に歯痛薬を11時-9-にたくす。

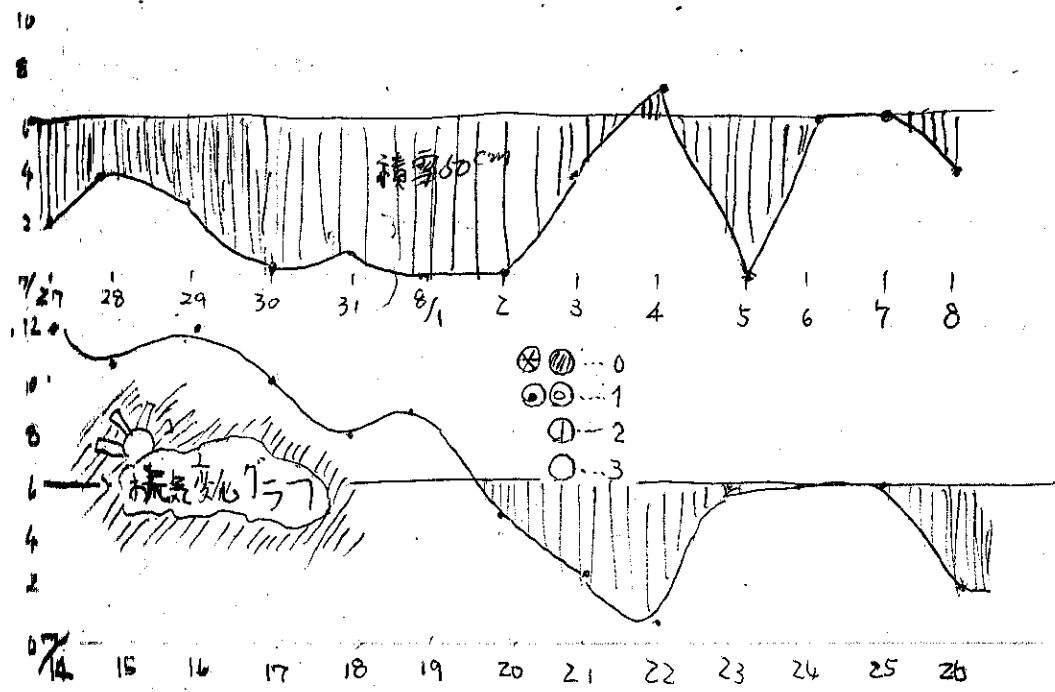
ガスのかかり方が変で、シエルヒ、カン氷河の内院からカルトロ、カンリにかけて、比較的、濃く、雪にたっている。シエルヒ、カンリは、雪稜から頂上にかけて半分だけは晴れている。ジャン916の山峰は、朝日からうらとガスである。気圧計の針も、C, 高度で5880mをさしたままである。

頂上やがて終了後は、測量や写真とりや、いろいろとややこしいことが残っている。

pm2:00 手紙4通書く、杉野修様、山田京三様、山根ぬい様、井上みづ様。 高度5885m.

C,の平均高度は5850m程度。それから30と35m程高く出ている。ここ10日直近く、悪い天気が続いている。後さん、つるさん木本は相も変るす花札に傾いている。小生は手紙書きと日記つきのみ。日本のことをおれこれ考えるのも楽しいのだが、縮尺も居るが、広さもぬる亦が良のみた。平井先生も食事時と、必要な指示を出す時以外は、おさぼる様に睡眠をとっている。これは高度の影響以外の何ものでもないように思える。

今日の昼食は、チーズ、ビスケット、レスンバタ、デザートにミカンの入ったフルーティプリン。サラミソーセージもついた。あと3日もこの悪天が続いたらC,の食料はピンチになるのだから、そのあたりバラサフはどう考えているのだろうか。



今日は午後3時過ぎから E(中探). 井上 緒, 平井隊長, 13名, 中村
居谷 Doctor 分のものをこる。平井先生に少し高度の影響が出ているようだ。
今日の昼食のデザートは再度書くがみかん7個のミーツ77. であま
か実にうまかった。この味は山の味というより、サ店の味であった。
Pm 7:00 5890m. で天気は再び悪化しているところである。

C₂ → C₃ → S のアタックはいつの事であろうか。

皆が狭いテントの中でごろごろしている毎日である。3連決は
初のこと。

せき 現在せきのひとりのが何人かいる。

岡本 Doctor, 13名, 中村, 木本, 平井隊長, 居谷,
居谷のはたいが直った様である。

"花札" C₁も鶴居君が花札を持ち込み。この連決中毎日やっている。小生
と木本, 居谷といったところで Rawalpindi の Park Hotel で始めたわけ
だが今も中村君, Doctor も加わって熱っぽくなっている次第である。

"脳浮腫" 7/30夜 C₁にて Doctor が C₁に居る他の7名全員の眼圧
検査をしたところ。全員脳浮腫の信号が出ている事がわかった。
田中, 井上, 木本, 緒, 居谷 の5名はすでに6500m 以上にて行動
しているのだからこの傾向にさらされていても不思議ではない
が、鶴居君, 中村君にも出ている事がわかった。一般論で
6000m 以上での口論は全て高所の影響ありと言われているが、実際
に言ってみるとこの通りである。高所とは、たいへんなところであ
る。

1976-7-30 (82) C₁ 決 ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗

am 5:00 ⊗ 積雪10cm 最悪の天気。高度5910m. -8°C

7/30の悪天が ~~おこ~~ かつとも、悪い天気となった。風はないが、夜
雪がしとしと降り積もり、これではどうしようもない天気である。今日も
決とする以外に午はないだろう。10人が6000m 近い高度で毎日
ふらふらしているのもあまり良い図ではないが、この悪天が続いては、
バラクーダも打つ午なしといったところであろう。ホコに行くとお便が出た。
体の相頂上アタックにそなえて非常に良かった様である。さて、たばこで
すて、明日からの事でも考えるながらもう - ジャリ するところか。

8:00 朝食。今日は平井先生と居谷が ABC に休養のため下降する
居谷は C₁入りしてから2日ほど C₂へのルートワークをしたもののその後
顔をむくませた。C₁にて決とラジックスの世話になっていたが、
何度か一担 ABC へ下降するよう進言していたものである。

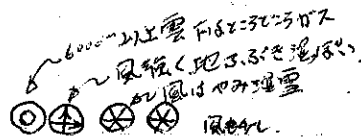
今日は阪大の石原と ABC 直で交信に成功した様である。呼
スタン軍のロスエが成功したとの事。阪大も東北大もアタック
の前段階まできて、この悪天の去るのを待っているとの事である。

C₁の食料もそろそろ終了。明後日には補給しなければなら
ななかった。明日あたり、天気が回復すれば6名が C₂入りしてア
タックへ結びつくのであるが、いかなるものか? 積雪量が
あまりないのが、幸いである。20cm 以上積もれば C₂へのルート
は雪崩の危険性が大きくなる。シエラレオネの南稜から2回ほど
新雪々崩が出る。

Pm 7:00 C₁ 高度5900m -6°C

今日はテントの下の雪の大整地と断熱マットの整地を午前
中やった。テント内はすいぶん快適になった。早く C₃入りア
タックといきたいものであるが、天気さんは、たいへんごねて
いる様です。

1976-07-31 (83) C1 沈



Am 4:30 天気を見るために起きて、C1の8人用のテントの外に出る。どんよりと6000m以上は雲に包まれている。今日もまた沈殿である。高度は5900m
 Am 8:00 朝食を伴りに岡本Doctorと中村君が女人用テントから出てくる。C1の食料もそろそろ底のはず。明日ひどい悪天でABCからIVホータンまでC3用という食料を荷上げしてあげなければ、ヒコナチである。ABCには平井先生と広石がいるので何とかやってくれるものと思ふが、きりきりと云ったところである。

風が北風に変り、気圧も9:00頃、5875mまで回復したのでこれは良い傾向だと思っていたが、何の事もない。6000m以上の厚い雪は南の方から流れてくるし、ここC1の風も三ノ岳の西稜と南東稜にあたる風が吹きおろしおいて、テントにたたきつけられているにすぎない。

10:00 気温 -3°C 高度 5905m

12:00 高度 5890m (強い風は収まって、少し雪が降り出す。湿雪)

9:00に南帳の花丸は盛り。現在Xバー(鶴谷、中村、木本)小生は70Lを作った)水を作ったり、コーヒーを作ったり、昼食の時間がやってきました。

Pm 1:20 俊さん小便に行っておられる。マタクを前にしてとんだハブコウである。原因は、はきりしないか、今回の俊さんの行動をみつめていると小生並に頑強している。無理を重ねた結果、今回で二度目の体調不良である。マタク態勢については、俊さんの代りに中村さんに入って自ら、広石も居るにもC2要員といなければならぬ。

あと何日この悪天が続くかが問題であるが、あと3日続くのであれば、明日はABCへ下降して、休養とし、明後日再びC1入りして、マタク態勢入りとお様考えなければならぬ。他の健康な隊員が皆、体調が悪くするとマタクがほんとは苦しくなってしまう。今日の悪天は、ほんとは我々にとっての試練である。幸運の女神が我々のところにやってくるのをじっと待たねばならぬ。奥に辛い事ではあるが、これが、17

2人のほんとのつらい苦しいところであるのかもわからない。6800mにテグキャンプを設営し、頂上とマタクする事は、この遠征の本番まただしであり、この待は、すむのしりか?

今日は悪天にもかかわらず、BCで待期していたH.P.達も女中 10:00 BCを出発して、13:00 ABCに着いた様である。

Pm 2:00 C1高度5880mまで回復。この調子で回復してくれば、今日の夕方には5860mぐらいに回復してくるかも知れない。甘い期待であらうか。明日からは、はい、8月である。8月10日までの勝負ではあるだろうが、晴天は、何日やらやってくるのだろうか。Doctorテントではたおれた俊さんとDoctor、木本、屋谷が何やら話しあっている。気温はとても高く、この雪なら日本の春山みたいである。(Pm 3:00 脈拍数88) 今日悪天連続11日目。

Pm 5:00 俊さんのホ、木取たらしく、Doctorテントから全員8人テントへ帰ってくる。

持ち帰りの価値評価式

原価償却価値 = R × 0.3

1kg 当りの輸送コスト

- 1) ホータン 10days × 50 / 25kg = Rs 20 / kg
- 2) jays Rtkos × 8 / 4000kg = Rs 2.8 / kg
- 3) P.I.A. flight Rs 2.0 / kg
- 4) 17,7 Pindi - 177. Rs 4.0 / kg
- 5) shipping Rs 3.0

約 Rs 27 / kg = 71000/kg

重量 W, 価格 R

$\frac{0.3R}{W} > 1050$

(A)

$\frac{0.3 \times 4500}{0.6}$